

佐渡米通信

こめる

2026年 10月号

発行日:2026年10月

発行：佐渡農業協同組合 担当：JA 佐渡 営農振興部 販売企画課
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

いよいよ令和8年産米の初検査開始!!

9月4日に令和8年産米の初検査を行いました。JA佐渡管内で収穫された早生品種のこしいぶき、ゆきん子舞、酒米の五百万石の3種類を合わせた1,770袋／玄米30kg (53.1t) が検査され、1等米比率は85%でした。

今年は田植え後の天候が安定していたことと平均気温が高かったため、生育が平年より早まり、例年より1週間程度早い初検査となりました。近年、JA佐渡では初期生育の確保が課題で品質が安定していなかったため、今年はその対策としてイナズマSという肥料を使っていたように呼びかけたり、高温対策として4年前から呼びかけた追肥対策が少しずつ実を結んできていると考えています。検査員からは「本日検査を実施したこしいぶきと五百万石ともに粒張り及び粒揃いは平年並み。今後、刈り遅れに注意するとともに適正な乾燥と流量による丁寧な調整作業を心掛けていただきたい」と講評がありました。



新潟県農産物検査協会の検査員が検査している様子

朱鷺と暮らす郷郷米をイチ押し商品として扱っている米穀店が佐渡へ

「朱鷺と暮らす郷」推奨店に加盟されている米穀店13店舗18名に来島いただき、産地交流会を開催しました。当日は朱鷺と暮らす郷コシヒカリの圃場（農薬と化学肥料を5割以上削減した圃場と栽培期間中農薬と化学肥料が不使用の圃場）視察を行い、3名の生産者から今年工夫されたことや作柄等について説明いただきました。米穀店の皆様には佐渡で体験したものを店頭で飾っていただくために、西三川ゴールドパークで砂金取りやしめ縄づくり等の体験を行いました。その後、意見交換会では家庭用向けとして必要な販促資材のご意見をいただいたり、朱鷺と暮らす郷米を飲食店向けにも拡大したいので、飲食店向けの販促資材を継続して提供して欲しいとご意見をいただきました。

翌日は朱鷺と暮らす郷米の要件の1つ「生きもの調査」を米穀店の皆さんに体験していただき、生きものの種類の多さやトキが好む生きものなどを知っていただくきっかけとなりました。

推奨店の皆様から「朱鷺と暮らす郷」米をイチ押し商品として扱っていただき、産地と共に朱鷺と共生した米づくりを応援してもらえるよう取り組んでまいります。



圃場の生産者から今年工夫されたことや作柄状況を聞いている様子



砂金を求めて真剣に砂金取りをしている様子



しめ縄づくりをしている様子



令和8年度「朱鷺と暮らす郷推奨店産地交流会」参加者の皆様